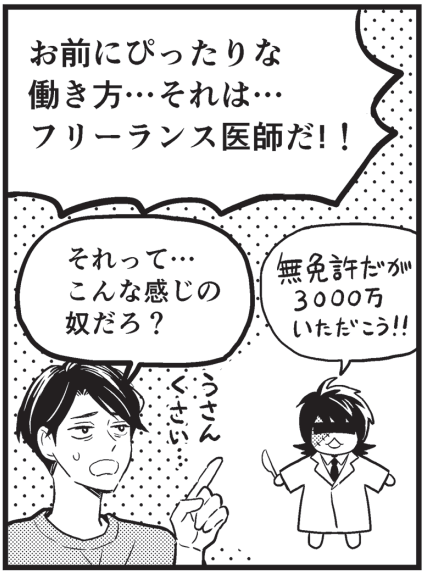
しかし今日も疲れたな……
今の病院は忙しすぎるし転職でも考えるかな…
特集
フリー…ランス…フリーランス…なれ…
ボヤアア
は！…
ん？誰だ!?

私は「おると」フリーランス医師だ!
ドオオン
だから誰だよ!?


お前にぴったりな働き方…それは…フリーランス医師だ！！
それって…こんな感じの奴だろ？
うさんくさい…
無免許だが3000万いただこう!!

そんなのはあくまでフィクション!!
実際には多種多様な働き方の可能性を秘めた存在なのだ!!
ゴオオ
バリバリ働きます!
子育ての合間に♪
カッ

フリーランス医師がどんなものか
これからお前に教えてやろう
ポワ
え…
頼んでないけど…

1 ゆるふわ系からスーパードクターまで 多彩なフリーランス医師の姿

➡ フリーランス医師の働き方に定義はない
➡ 多いのは**複数の医療機関と契約，週3〜6日勤務**
➡ 勤務内容は外来が多いが，契約によっては病棟管理や当直も可能

常勤医や開業医との違いは? どんな働き方が「フリーランス」なの?

表1 常勤医，開業医，フリーランス医師の比較表

	常勤医（勤務医）	開業医	フリーランス医師
勤務日数	週4〜6日	週4〜6日	自由
給与	普通	高い	やや高い
休み	少ない	少ない	自由
勤務内容	外来・手技・病棟管理 救急・当直　など	外来・手技・経営	自由（契約内容による）

常勤医（勤務医）は多岐にわたる業務で長時間労働になりがち

表1は常勤医（勤務医）・開業医とフリーランス医師の働き方の違いを簡単に比べたものです。

常勤医（勤務医）は特定の医療機関と常勤の雇用契約を結んで勤務する雇用形態で，一般的な職業に例えるならば正社員のような安定した働き方となります。

勤務の日数は医療機関との労働契約によって異なりますが，週4〜6日のところが多いと思います。医師でない方から見ると「4日とかなら意外と少ない？」と思うかもしれませんが，ここには少しカラクリがあります。

常勤医には毎週「研究日」という，「常勤先で勤務せずに勉強・研究をしなさい」という名目の休日（のようなもの）が与えられる場合があります。ただし，ほとんどの常勤医の給与は，「医者＝高給取り」と一般の人が思うような給与よりかなり低めに設定されているため，多くの医師はこの研究日には休まず，「定期非常勤＊[1]」という形で別の医療機関での勤務（通称バイト）を入れています。この定期非常勤は一般的に常勤よりも時給がやや高めに設定されており，これを頼みに生活している医師も少なくありません。

このように少ない休みに仕事を入れてしまっている上，通常の勤務の時間には外来診療，病棟管理，手技（手術や内視鏡など），カンファレンス（治療に関する打ち合わせ）など多岐にわたる業務をこなすこととなります。さらに，この通常勤務とは別に，月に数回の当直業務と，夜間対応を行う「オンコール」，場合によっては休日に当番出勤を担当することもあります。そのため，実際には週5〜7日で働くことも少なくありません。

常勤医として働く場合，特に若手は夕方の手術やカンファレンスで時間外の仕事が増えることもあり，時間のコントロールがなかなか難しく，長時間労働になりがちです。このようなことから，「医師は激務」という状態に陥っていくのです。

開業医には経営リスクが伴う

次に，開業医は自ら診療所や病院を経営する医師です。立場としては雇用する側となります。

自分がメインで診療を行う場合は，週5〜6日勤務する人が多いと思いますが，この日数は勤務医を雇うなどの対応で減らすことが可能です。

医師としての勤務内容は外来や手技がメインで一見すると勤務医よりも業務の幅は狭まりますが，その裏で**従業員（医師，看護師などの医療職，事務員）**

＊1：定期非常勤：非常勤勤務のうち，週に1日，2日など勤務日を決めて定期的に働く勤務形態のこと。一方，非常勤として特定の日だけ不定期に勤務する形態は「スポット」と呼ばれる

の労務管理や経理など経営に関わる事務的な仕事もやらなければいけません。

また，勤務医のときはあまり考えなかった診療のコストや利益などもしっかり考えて医業を行う必要があります。

経営リスクに対する責任が強くなる立場であり，また従業員同士の人間関係や医師会などとの関係も気にしたりと，医業以外での心労は大きくなってくるのではないかと思います。しかしその分，経営がうまく軌道に乗れば一番お金を稼ぐことができる働き方でもあります。煩わしいルールなどに縛られず，すべて自分の思いのままに経営の指揮を執ることができるのが開業医の強みと言えるでしょう。

フリーランス医師の勤務形態は多種多様

一方，フリーランス医師とは，常勤医，開業医以外の働き方をする医師と定義することができるでしょうか。極端な話，特定の医療機関と常勤契約を結ばず，開業もしていない医師が医業を行っていれば，それは立派な「フリーランス医師」と呼べるでしょう。つまり「非常勤勤務のみで生きている医師」*2ということですね。

実際，フリーランス医師の勤務は，一言で言うと自由です。「定期非常勤を敷き詰め，毎日馬車馬のように働く」「育児の合間に週1日だけ働く」「海外を旅しながら船医をして，たまに帰ってきて定期非常勤で当直をしたりする」など，何をやっても同じフリーランス。つまり，働き方の定義なんて決まっていないのが型破りなフリーランス医師の強みです。

週に何日・何カ所で働くか？　当直はするのかしないのか？　仕事内容はどうするのか？　など，働き方は自分で自由に決めていいのです。……とは言っても読者は困惑してしまうだけだと思いますので，一番多そうな働き方を例に挙げてみることにします。

＊2：ただし，スポット勤務のみで働く医師は厳密には「フリーランス」とは呼ばず，「フリーター医師」や「バイト医師」と呼ばれることが多い

1 フリーランス医師の収入はどんなレベルなの?

➡一般的な医師の収入は高水準を保っているが，拘束時間を考えると報酬が少ないと考える医師は少なくない

➡特に若年層の場合，完全週休2日の条件でも，**フリーランスになると2倍以上の収入**が見込める

医師の収入は世間的にはどういうレベルなのか？

まず，一般的な医師の収入の話からしていきましょう。みなさんは医師の収入というものが世間的にどの程度のものかご存じでしょうか？

厚生労働省の「賃金構造基本統計調査」にある統計表から，職種別の年収を概算してランキング化したのが**表1**です。

表1　職種別　年収ランキング（2018年）

1位	航空機操縦士	2,048.0万円（43.0歳）	6位	歯科医師	848.9万円（37.3歳）
2位	医師	1,161.1万円（40.9歳）	7位	記者	788.1万円（40.4歳）
3位	大学教授	1,081.5万円（57.4歳）	8位	弁護士	765.7万円（36.0歳）
4位	公認会計士・税理士	891.9万円（38.6歳）	9位	一級建築士	721.6万円（49.4歳）
5位	大学准教授	867.3万円（48.1歳）	10位	大学講師	719.0万円（42.9歳）

※職種別の平均値（男女）から計算，（）内は平均年齢
厚生労働省：平成30年賃金構造基本統計調査統計データ「職種別きまって支給する現金給与額，所定内給与額及び年間賞与その他特別給与額（産業計）」
[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031683128&fileKind=0]
（2019年8月20日アクセス）より作成

表 1 を見ると，医師の収入が全職種の中でも高めに設定されており，専門職としての強みをしっかり発揮しているのがわかるかと思います。

しかし他の職種と大きく異なる点として，現在でも**医師の給与は年功序列で決まることが多く，特殊な契約を交わしたり，開業したりしない限り，収入は一定の年齢で頭打ち**となることがほとんどだという点が挙げられます。

また，当直やオンコールなどがあるために**一般的な職業に比べ拘束時間が長く**，結果として，きわめて多忙な割に報酬が少ないと考える医師が少なくありません。

実際に，この先ほど計算した年収を平均勤務時間で割って，時給を計算してみましょう（**表 2**）。

表 2　職種別　時給ランキング（2018 年）

1 位	航空機操縦士	11,454 円	6 位	公認会計士・税理士	4,084 円
2 位	大学教授	5,598 円	7 位	弁護士	3,867 円
3 位	医師	5,436 円	8 位	大学講師	3,745 円
4 位	大学准教授	4,489 円	9 位	記者	3,732 円
5 位	歯科医師	4,113 円	10 位	航空機客室乗務員	3,579 円

※職種別の平均値（男女）から計算した年収を所定内労働時間＋超過実労働時間で割って計算
厚生労働省：平成 30 年賃金構造基本統計調査統計データ「職種別きまって支給する現金給与額，所定内給与額及び年間賞与その他特別給与額（産業計）」
[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031683128&fileKind=0]
（2019 年 8 月 20 日アクセス）より作成

表 2 のように，医師は大学教授と順位が入れ替わり第 3 位に転落します。医師の年間労働時間は平均 2,136 時間であり，年収 TOP10 の職種の中では一級建築士や公認会計士・税理士に次いで長いのが原因です。

次に年代別，男女別での医師の平均年収をみてみましょう（**表 3**）。

1 最難関!? 脱医局，脱職場をどうやって円満に進めるか

➡医師の場合，退職は少なくとも6カ月前には伝える
➡退職時期はやはり年度末がお勧め
➡辞める場合も医局との良い関係を保てるよう努めるべき

実際にフリーランス医師になるにあたって，多くの方が一番しんどいと考えるイベントが，実はこの「退職」の伝え方，進め方です。話の切り出し方からタイミング，具体的な進め方まで，順を追って解説していきましょう。

いつ頃切り出すのがベスト？

医局や職場に対して「辞めさせて下さい」と切り出すのは，人間関係なども考えるとなかなか難しいものです。しかし，**転職するとなればいつかは必ず伝える必要がある上に，先延ばしにしてもあまりよいことはありません。**

職場に退職希望を伝えるタイミングですが，**医師の場合は，少なくとも6カ月前までには希望を出したほうが良いと思います。**次の仕事が決まっている場合，あるいは自分の決意が完全に固まっている場合は，もっと早く伝えてしまってもかまわないでしょう。

医療機関，特に大規模な病院では翌年の人事を早くから組む必要があり，早く伝えられれば伝えられるほど，準備期間ができるためありがたいという形ですが，医局によってはそもそも「半年ルール」など独自の退職ルールが定められている場合もあります。法的な拘束力はありませんが，無視すれば医局との関係も悪くなりますし，多少は相手のことも配慮するべきでしょう。

ちなみに僕は**辞めると決めた年の9月（＝年度末の半年前）に，当時の医局長，教授と面談しました。**

ただし，「辞めさせて下さい」と伝えて，「はいそうですか」とすぐに退職させてくれる医局・病院は現実にはおそらく少ないと思います。フリーランス医師になろうと考えている先生方の年代は，だいたい専門医取得から15年以内が多いのではないかと思いますが，**医師として一定ランクの技術を保証でき，年齢も比較的若いので，病院側にとっては今後中核となって働いていってほしい世代**と考えられます。医局・病院の立場としては，そう簡単に辞められては困るのです。

僕の友人にも，半年以上前に医局に退職希望を出したものの「もうお前の来年度の勤務先も決まっているから無理だ」と言われ，勤務が1年以上伸びた人がいます。**医局と完全に縁が切れても問題ない場合は，奥の手として強引に辞めてしまうことも可能ではありますが，後述する通り，あまりお勧めはできません。**

退職時期は年度末がお勧め

退職することを職場に伝える際には，ほとんどの場合，同時に退職する時期や理由についても伝える必要があります。特に退職時期に関しては，今すぐ辞めたいのか，あるいは年度末まで働くのかなど，可能性がいろいろ考えられるため，詳細に聞かれると思います。

日本では職業選択の自由が憲法で保障されていますし，法律上も絶対に辞めたいと思えばいつでも仕事を辞めることはできるのですが，**退職のタイミングとしてお勧めしたいのはやはり年度末**です。

理由としては，以下の3点が挙げられます。

- 他の医師の異動もこの時期に行われるため，仕事の引き継ぎがしやすい
- 人事が動く時期のため，新しい職場への出入りが自然にできる
- 人事異動や医局退局に伴い転職サイトに求人が出やすく，転職活動がしやすい